

## 船舶インシデント調査報告書

令和4年4月27日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航不能（機関故障）
発生日時	令和3年7月23日 19時09分ごろ
発生場所	富山県黒部市生地鼻西方沖 生地鼻灯台から真方位260° 4.8海里付近 （概位 北緯36° 53.0′ 東経137° 18.7′）
インシデントの概要	プレジャーボート田中丸は、航行中、アウトドライブ部が破損し、運航不能となった。
インシデント調査の経過	令和3年7月27日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 田中丸、0.9トン 244-22674新潟、個人所有 ディーゼル機関、船内外機、4サイクル、出力36.78kW、回転 数毎分3,600、4気筒、ボア78mm、使用燃料軽油、昭和59 年11月進水、平成4年機関製造
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 4、視界 良好 海象：波高 約1m
インシデントの経過等	<p>本船は、7月22日に前船舶所有者から購入して引渡しを受けた後、船長が1人で乗り組み、回航の目的で港を出航した。</p> <p>船長は、主機を全速力前進として航行中、速力が急に落ちたことに気付いた。</p> <p>船長は、主機を止め、船尾部のアウトドライブ部を点検したところ、アウトドライブ部右舷側が下方にずれた状態となっていることを知った。</p> <p>船長は、運航不能と判断し、118番通報を行い、来援した巡視艇により港にえい航された。</p> <p>本船は、機関修理業者により点検が行われた結果、アウトドライブ部を支える「スイベルフォーク右舷側のアーム」（以下「ドライブアーム」という。）が、経年劣化による腐食によって破損し、左舷側のアームのみで支えられた状態であったことが分かった。</p> <p>本船は、機関修理業者によれば、ドライブアームの破損により、ドライブ部取付け位置が下方にずれて主機からの動力伝達軸が外れ、推進器への動力の伝達ができなくなったと判断された。</p>

	<p>船長は、本船の購入以前におけるアウトドライブ部の整備点検状況を承知していなかった。</p> <p>機関修理業者によれば、本船のアウトドライブ部は、製造後ほぼ30年経過しているとみられ、航行する前に機関整備業者に点検整備を依頼し、アウトドライブ部の取付状況を確認しておくことが望ましいとの見解であった。</p>
<b>分析</b>	<p>本船は、ドライブアームが経年によって腐食が進んだ中、航行中、ドライブアームが破損したことから、アウトドライブ部取付け位置が下方にずれ、主機からの動力伝達軸が外れ、推進器に動力の伝達ができなくなり運航不能となったものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本インシデントは、夜間、本船が、ドライブアームが経年によって腐食が進んだ中、航行中、ドライブアームが破損したため、推進器に動力の伝達ができなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>
<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製造から長年経過した船内外機を装備する小型船舶を購入した船長は、航行する前に機関整備業者にドライブ部の点検整備を依頼し、ドライブ部スイベルフォークの状況を確認するなど、機関の点検、整備を適切に行うことが望ましい。</li> </ul>